

### -7 魚を魚道へ誘導する

魚を魚道下流端へ誘導できれば、施設下流への滞留がなくなり、より速やかに遡上することができる。以下はその事例である。

なるかおおげき  
鳴鹿大堰

#### ～呼び水水路による魚の誘導～

- 地 域：福井県 九頭竜川 鳴鹿大堰魚道（人工河川式魚道、階段式魚道 延長 187.595～212.766m、勾配 1/20、幅員 3.5m + デニール式魚道 幅員 1.5m）
- 施 工 時 期：平成 11 年（事業者：国土交通省 近畿地方整備局）
- 原理（考え方）：呼び水は魚道下流端脇から強い水流を出し、魚が流れに向かう習性を利用して下流端へ誘導するものである。
- 特 徴 と 留 意 点：魚道流量に加えて呼び水流量も必要なため、流量に余裕がない場合には不向きである。なお、河口堰の場合には堰下流が汽水域のために魚は淡水を求めて遡上することから、強い流れは必要ないとされている。

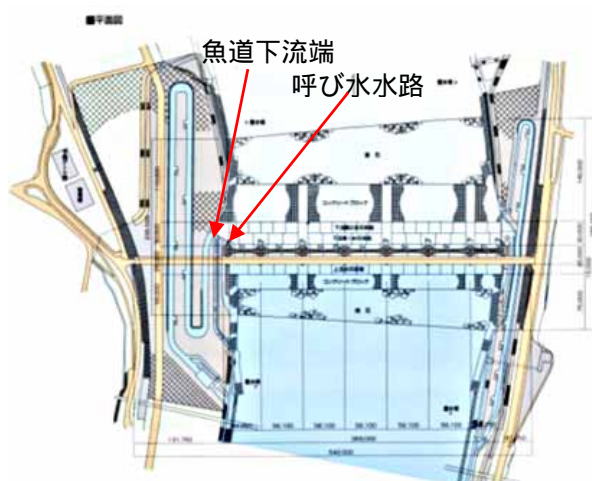


出典）福井河川国道事務所資料

きのかわおおげき  
紀の川大堰

#### ～呼び水水路の工夫～

- 地 域：和歌山県 紀の川 紀の川大堰魚道（呼び水水路）
- 施 工 時 期：平成 14 年（事業者：国土交通省 近畿地方整備局）
- 原理（考え方）：紀の川大堰では呼び水水路にスイングゲートを取り付け、動力により呼び水の流向を可変とし、魚の遡上経路の変化に対応できるように工夫されている。
- 特 徴 と 留 意 点：魚道流量に加えて呼び水流量も必要なため、流量に余裕がない場合には不向きである。また、高い施工費用及びランニングコストを必要とする。



呼び水水路下流端のスイングゲート

出典）紀の川魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業 技術レポート